

乳腺科

診療科名	乳腺科 (文責者 山田 公人)
科長名	山田 公人
診療科概要	<p>急増する乳癌患者に対応するため、それまで消化器外科、移植・一般外科、胸部外科でそれぞれ対応していた乳腺疾患を専門に診療する目的で2006年10月に開設されました。八王子市内には乳癌学会認定施設がなかったこともあり、地域の中核病院として機能しています。外来患者数 約40名/日 手術症例 158件(2016年度)、許可病床数は7床ですが進行症例も多く、常に満床状態となっています。当科の専門資格取得の最終目標は乳腺専門医ですが、日本乳癌学会の専門医は基幹学会の専門医取得の後に取得資格ができるものです。従いまして後期研修医の研修期間は外科学会専門医の修練カリキュラムを基本として研修します。その上で外科学会専門医取得後、最短期間で乳癌学会認定医・乳腺専門医が取得できるよう配慮したプログラムとなっています。</p>
取得可能認定医専門医	日本外科学会専門医・日本乳癌学会認定医・(乳腺専門医)
指定研修施設の名称	東京医科大学八王子医療センター(認定施設番号3017)
修養年限	5年
プログラム	<ul style="list-style-type: none"> ・外科専門医修練カリキュラム 1年次は外科専門医試験に必要な手術経験を関連各科に出向し経験する。 ・乳腺科での研修プログラム 1) 乳腺科の外来にて、診療担当医の診察、検査、治療法などを陪席し習得する。 2) 指導医とペアを組んで入院患者の手術・術前術後管理・その他の診療を担当する。 3) 乳腺科におけるより専門的な検査手技・治療法とは、以下のようなものがある。 マンモグラフィ(自力で読影できる 読影試験合格を目標とする) 乳房超音波検査(独立して施行、読影ができる)・乳管造影(助手として経験) 全身骨シンチグラフィ・リンフォシンチグラフィ(読影ができる) 胸部・腹部CT検査(読影ができる)・乳房MRI検査(読影できる) 乳房超音波下穿刺吸引細胞診(術者)・超音波下針生検(術者) 良性乳腺腫瘍摘出術(術者) 乳輪下膿瘍根治術(術者)・乳房切除術(術者) 乳房温存手術(術者)・センチネルリンパ節生検(術者) 乳房再建術(助手として経験) 放射線療法(意義と適応を理解し放射線科医とディスカッションできる) 化学・内分泌療法(意義と適応を理解し治療計画を立てられる) ターミナルケア(チームの一員として関わることができる) これらの乳腺専門医として必要な手技、知識を6年間のうちに自分のものとする。 乳癌学会関東地方会、乳癌学会で発表し、成果を論文とする。
2年次	外科専門医修練カリキュラム 形成外科 救命救急など必要な症例を経験する 乳腺科での研修プログラム 乳腺専門医に必要な乳腺病理の知識を国内専門施設で研修、取得する
3年次	外科専門医修練カリキュラム 外科専門医認定試験受験(筆記) 乳腺科での研修プログラム 手術において術者を積極的に経験し手技を身に着ける
4年次	外科専門医修練カリキュラム 外科専門医認定試験受験(面接) 乳腺科での研修プログラム 提携研究施設との共同研究に参加、成果を発表する
5年次	乳腺科での研修プログラム 日本乳癌学会認定医試験受験 学位に向けた論文作成
終了後	学位提出 乳腺専門医試験受験 専門医取得

<p>スタッフ紹介</p>	<p>科長 山田 公人（准教授）日本外科学会指導医・同専門医、日本乳癌学会専門医 日本呼吸器内視鏡学会指導医・同専門医、日本がん治療認定医 日本気管食道科学会認定医・同専門医 日本レーザー医学会指導医・同専門医 マンモグラフィ読影A認定医、日本医師会認定産業医 細胞診専門医</p> <p>天谷 圭吾（助教）</p>
<p>週間スケジュール</p>	<p>朝夕は全員で病棟ラウンド 夜間はオンコール体制 1年次後半から参加 休日は交代制</p>
<p>月曜日</p>	<p>午前 手術（術者または助手） 午後 手術（術者または助手） 19時～ 新薬説明会</p>
<p>火曜日</p>	<p>午前 外来（初診・再診） 病棟業務 午後 手術（術者または助手） 18時～ カンファレンス</p>
<p>水曜日</p>	<p>午前 化学療法外来にて患者管理 午後 病棟業務</p>
<p>木曜日</p>	<p>午前 外来（初診・再診） 午後 乳がん検診 検査 摘出生検など</p>
<p>金曜日</p>	<p>午前 外来（初診・再診） 午後 外来手術</p>
<p>土曜日</p>	<p>午前 外来（初診） 病棟業務 CVポート挿入など</p>